学校番号	T1206

令和８年度　　工業科

教科	工業	科目	基礎自動車実習１	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「自動車工学１」　（実教出版）						
副教材等	「基礎自動車工学」　（日本自動車整備振興会連合会）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自動車とは現代に生きる我々にとって最も身近な交通手段のひとつであり、欠かせないものである。
基礎自動車実習１の講座では、自動車の基礎である汎用エンジンの分解・組立を通して、エンジンの仕組みを理解し、安全で安心な自動車の提供に必要な資質・能力を育成する。
本講座は、同年に基礎自動車実習２をセットで履修し、３年生で総合自動車実習を学習することを前提とした講座となる。
授業は自動車工場を中心に行うが、適宜その他工場でも行うことがあるので教科担当の指示を良く聞いて授業に参加すること。
実習系授業では、実習服を着用し安全靴や運動靴のように足を保護できるものを履くこと。
評価は学習態度、実習成果、レポートなどで総合的に評価する。

２ 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、安全で安心な自動車の提供に必要な資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
(１)汎用エンジンについて構造と機能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につける。
(２)汎用エンジンに関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
(３)汎用エンジンの付加価値を高める力の向上をめざして自ら学び、自動車産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

３ 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	汎用エンジンおよび汎用エンジンを構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識・観察の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度を身につける。	汎用エンジンおよび汎用エンジンを構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力を身につける。	汎用エンジンおよび汎用エンジンを構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に探究するとともに、学びに向かう力を身につけようとしている。

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	汎用エンジンの分解	実習安全 工具の使い方 吸排気装置 イグナイタ 燃料装置 潤滑装置 バルブ機構 クランク シャフト ・ピストン	a:自動車用エンジンの基本となる汎用エンジンおよび汎用エンジンを構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識・観察の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度が身についている。 b:自動車用エンジンの基本となる汎用エンジンおよび汎用エンジンを構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力が身についている。 c:自動車用エンジンの基本となる汎用エンジンおよび汎用エンジンを構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に探究するとともに、学びに向かう力が身についている。	実習状況 レポート 観察等	実習状況 レポート 観察等	実習状況 レポート 観察等
後期	汎用エンジンの組立	クランク シャフト ・ピストン バルブ機構 潤滑装置 燃料装置 イグナイタ 吸排気装置 運転	a:自動車用エンジンの基本となる汎用エンジンおよび汎用エンジンを構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識・観察の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度が身についている。 b:自動車用エンジンの基本となる汎用エンジンおよび汎用エンジンを構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力が身についている。 c:自動車用エンジンの基本となる汎用エンジンおよび汎用エンジンを構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に探究するとともに、学びに向かう力が身についている。	実習状況 レポート 観察等	実習状況 レポート 観察等	実習状況 レポート 観察等

※ 表中の観点について　a：知識・技術　　b：思考・判断・表現
c：主体的に学習に取り組む態度